

「姉川・高時川河川環境ワーキンググループ」の設置（平成16年6月2日設置）

0. 琵琶湖の流入状況調査について

琵琶湖では昭和50年代から水質改善対策が実施されており、BODやT-N、T-P、CODは改善ないしは横ばいの傾向にある。しかし、依然としてCODは悪化の傾向にある。また、湖底層の低酸素化やダム放流水による琵琶湖水質への影響、湖底の泥質化が指摘されている。

本ワーキンググループの設置に当たっては、当初から「姉川・高時川から琵琶湖への流入状況調査」とその「影響の検討」を項目として挙げているが、淀川水系流域委員会の意見書（平成17年1月11日）等も踏まえ、丹生ダムによる琵琶湖への影響検討および琵琶湖の水環境の現状の課題の解決に向け、検討範囲を琵琶湖流域全体に拡大する必要があると考えられる。

そこで下記のとおり、琵琶湖流域の現状把握、水循環・物質循環メカニズム検討、琵琶湖水質予測などの検討を行う。

1. ワーキンググループ設置の目的

淀川水系河川整備計画策定に向けた丹生ダムの調査検討項目のうち、姉川・高時川（琵琶湖への影響を含む）の望ましい河川環境の調査・検討内容等について、専門家の指導・助言をいただく。

この目的のための検討に資するとともに、あわせて、琵琶湖の水環境の現状の課題への影響について指摘されている湖底層の低酸素化やダム放流水による琵琶湖水質への影響、湖底の泥質化の解決に向け、流域の現状把握、水循環・物質循環メカニズムの検討、琵琶湖の水質予測等の検討を行う。

2. ワーキンググループでの検討事項

姉川・高時川の望ましい河川環境の実現にむけた検討を下記（図1）のように進める予定である。この検討の進め方や検討の内容、必要な調査等について、指導・助言をいただく。また、琵琶湖の水質予測モデル構築について、図2のように検討を進める予定である。

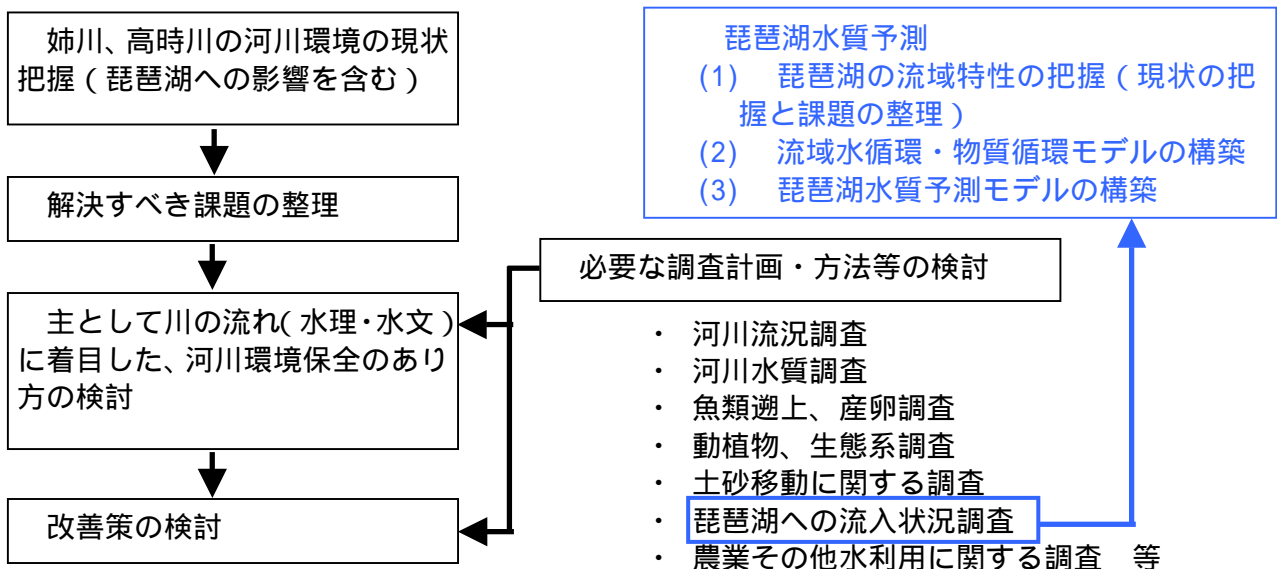


図1 姉川・高時川の望ましい河川環境についての検討フロー

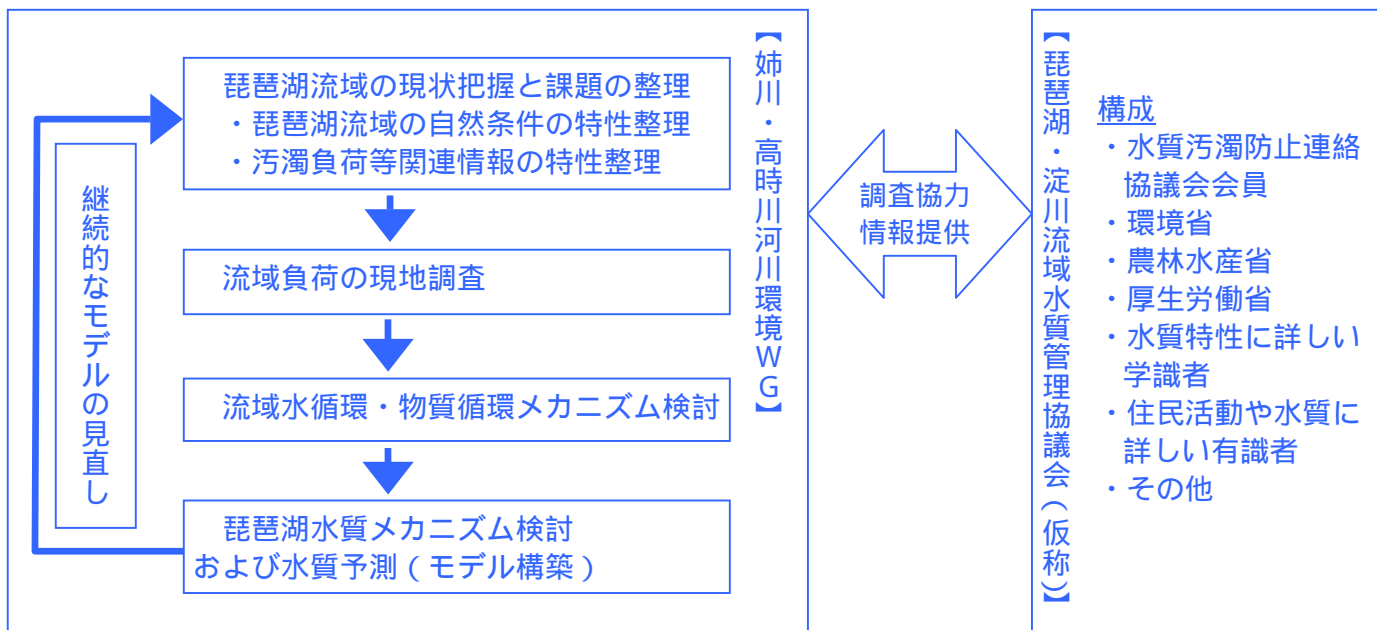


図2 琵琶湖水質予測についての検討フロー

### 3. ワーキンググループメンバー

姉川・高時川河川環境ワーキンググループメンバーリスト（50音順）

専門分野	氏名等	
環境経済	池上 甲一	近畿大学農学部 教授
河川（土砂）	江頭 進治	立命館大学理工学部 教授
水環境	熊谷 道夫	滋賀県琵琶湖研究所 総括研究員
河川（水文）	寶 馨	京都大学防災研究所 教授
環境工学	田中 宏明	京都大学附属環境質制御研究センター 教授
河川生態	竹門 康弘	京都大学防災研究所 助教授
漁業	鳥塚 五十三	南浜漁業協同組合 組合長
生態（魚類）	前畑 政善	滋賀県立琵琶湖博物館 総括学芸員
農業土木	渡邊 紹裕	総合地球環境学研究所 教授

: チーフ